

平成28年度第5回理事会議事概要

日 時 : 平成28年8月5日(金) 15:30～16:20

場 所 : 森林総合研究所林木育種センター小会議室

出席者 : 理事長 沢田 治雄

理事(企画・総務・森林保険担当) 桂川 裕樹

理事(研究担当) 田中 浩

理事(育種事業・森林バイオ担当) 渡邊 聡

理事(森林業務担当) 奥田 辰幸

理事(法令遵守担当) 三木 眞

監事 鈴木 直子

監事 平川 泰彦

総括審議役 上野 司郎

総括審議役 大貫 肇

総括審議役 國井 聡

審議役 河野 晃

企画部長 高橋 正通

総務部長 松本 寛喜

1. 開会

2. 議事

(上野総括審議役)

ただいまより、平成28年度第5回理事会を開催いたします。本日は報告事項が5件となっております。順次説明をお願いいたします。

I-1. 障害者の雇用状況について

(松本総務部長)

「障害者の雇用の促進等に関する法律」では、従業員数50名以上の事業主に対し、その雇用する労働者に占める身体障害者・知的障害者の割合が一定率（法定雇用率）以上になるよう義務づけられております。

当所（国・地方公共団体等に分類）の法定雇用率は2.3%であるのに対し、本年6月1日時点（法に基づく報告日）での雇用率は2.65%となっております。

このため、法に基づく基準は満たしているところであり、引き続き全所をあげて障害者の雇用促進に努めて参りたいと考えております。

I-2. 平成28年度関東地区特定母樹等普及促進会議の概要について

(渡邊理事)

特定母樹等普及促進会議につきましては、昨年度から関東地区に限らず全国の育種基本区におきまして特定母樹の普及等を図るため、関係者に集まっていただきまして開催しております。

昨年度の関東地区特定母樹等普及促進会議は、この時期に林木育種センターにおいて行いましたが、今年度は長野県佐久市において開催致しました。最近は特にカラマツの種苗が不足しているということもございますので、カラマツをメインテーマとして会議を行っております。参加者については、資料に記載の方々ほかに林野庁の担当官にもアドバイザーとして参加していただいております。森林総合研究所本所、森林整備センター、長野水源林整備事務所からも出席しています。

1日目は室内協議、2日目は現地検討会を実施いたしました。1日目の概要は次のとおりです。

1点目はカラマツに対する取組について、関東育種基本区においては、カラマツエリートツリー60系統のうち38系統が特定母樹に指定されました。これらにつきましては、早期に採種園を造成したいとの各県のご要望に応じて、来年29年の春には原種苗木を群馬、山梨、長野に配布する予定としております。そのほか、カラマツの苗木不足の解消のための外部資金による研究プロジェクトが発足しておりまして、これからカラマツの種苗増産に向けた技術開発が行われます。また、国有林の対応といたしまして、関東森林管理局と中部森林管理局のカラマツの採種園につきまして採種園としての機能を回復させるための整備の取組の報告がございました。

2点目は特定母樹に関連した報告として、林木育種センターからエリートツリーの植

栽試験の現状につきましてご報告しました。特定母樹は昨年度末で173系統指定されていますが、そのうち168が林木育種センターが申請したもので、残り5つが静岡県
の単独申請によるものです。このため、静岡県から特定母樹開発に係る経緯などをご報告
いただいております。

3点目は林木育種センターから、生産期間1年で出荷できるスギのコンテナ苗生産技術
について報告しております。

2日目の現地検討会につきましては、当所の出先機関で、特にカラマツを中心に原種
の苗木を作っている長野増殖保存園と、カラマツの特定母樹を選抜した国有林の検定林
の視察を行いました。また、カラマツの着果促進に向けて、幹の樹皮をはぎ取る環状剥
皮の実演を行いました。

(上野総括審議役)

カラマツにつきましては、昭和30年代に沢山植えられたわけですがけれども一時材質
等でどうだという話がありましたが、最近は合板等の需要が非常に高まっているという
ことで各地での伐採も進み、苗木の需要も大変多いと聞いております。そうしたことも
踏まえた取組みのご紹介でございました。

I－5. 水源林造成事業における全国労働安全週間及び準備月間の取組について

(三木理事)

森林整備センターでは全国安全週間ならびに準備月間（6月～7月）において職員の
労働安全に対する意識向上の強化を図るとともに水源林造成事業に関わる造林者等への
労働安全衛生指導に取り組んでおります。ここでは代表的なものをご報告します。

1. 全国安全週間における安全講話

林野庁林業労働対策室の岡井室長を講師に招き、整備センターから70名、保険セ
ンターから34名の合計104名の参加者を対象に、林業労働安全についての講話を
していただきました。

2. 水源林造成事業に係る労働安全衛生指導等について

労働災害ゼロに向けて、労働安全衛生に関する指導及び施業実行中の現場における
安全パトロールなどを実施しました。

平成27年度の災害事例等を踏まえ、平成28年度より重点指導事項を新設致しま
した。

今回の資料に掲載されているものは水源林造成事業に係ることですが全国安全週間の
取組内容というのは水源林造成事業だけではなく、たとえば火災が発生した時にどうい
う形で避難するか、ヘルメット等が準備されているか、水や食料が適切に保管されてい
る等、このようなことについてこの2ヶ月間取り組んできましたことを、併せてご報告
致します。

(鈴木監事)

重点指導事項の新設等行われておりますが、これは定期的にフォローアップとかを行

い周知徹底を図っていかれるのですか。

(三木理事)

今年度からは特にこの重点指導事項の５項目についてしっかりやって欲しいということです。フォローアップは当然行わなければならないという認識であります。

(上野総括審議役)

４８カ所で実施されておりますが、職員、造林者等の方に対するものを合わせてということですか。

(三木理事)

水源林整備事務所や整備局で実施している造林者会議の場で行っているものと、実際の現場でパトロールを行いながら指導するものを合わせてでございます。

(理事長)

当所職員だけではなくて関係する方全員に行ったということですか。

(三木理事)

そのとおりです。

森林組合や造林請負業者等の造林義務者と水源林整備事務所のメンバーとが造林者会議というものを行っており、造林義務者にはそのような場で安全指導をしております。

(奥田理事)

労働安全衛生法上、あくまでも安全確保の責任者は契約相手方である森林組合等の事業者になりますので、契約相手方に対しての私どもからの要請であります。職員に対する指導とはよく区別して行ってまいります。

(上野総括審議役)

森林管理署等とはどのような経緯で合同で行うことになったのですか。

(奥田理事)

森林管理署は国有林の現場を抱えており、かつて自ら現場作業員を雇用し事業を行っておいりましたので安全に関する知識をしっかりお持ちです。このため、私どもからお願いして、森林管理署の安全パトロールに同行させていただいて、あるいは労働基準監督署の安全パトロールに同行させていただいたりして我々の職員のレベルアップを図らせていただいております。

(上野総括審議役)

本日の報告事項は以上でございます。

これで平成２８年度第５回理事会を終了いたします。

次回の平成２８年度第６回理事会は９月９日（金）に開催予定です。

３．閉会